

2026年度（令和8年度） 事業計画

社会福祉法人育木会
薬園台・学びの保育園

(1) 2026年度事業計画の位置づけ

1. 2026年度は、2025年度までに積み重ねてきた『理念浸透』『共主体』『問いと対話』『学び合う文化形成』を重視したことを「定着」から「自走」へ進める1年とする
2. 3つの経営の柱は継続しつつ、「できていることを広げ、課題を構造的に解決する」ことを目的とする
3. 本計画は、理念を掲げるだけの計画ではなく、現場で実行され、ふりかえられ次につながる計画とする

(2) 経営の3つの柱の確認

1. 理念に沿った、保育の質的向上
2. 従業員のやりがいと、労働環境の整備
3. 適切な利益の創出と、保育への再投資

(3) 2026年度事業計画

1. 中長期計画を“現場の言葉”で再設計し、共通の羅針盤として磨き直す

園長・主任・法人によるロングミーティングを通じて、現場視点を踏まえた中長期計画の見直しと再構築を行い、「分かる、語れる、使える」計画へとブラッシュアップする

2. 理念の浸透を“理解”から“実践の質向上”へ進化させ、7つの学びプログラムの実効性をさらに高める

前期の成果を丁寧に戻り、各園ごとに理念浸透と価値創造を研修等も活用しながら深め、保育の場面で実感できる変化につなげていく

3. 「共主体」をスローガンではなく、一人ひとりの行動として定着させる

共主体を個人の役割、日常業務、保育実践に落とし込み、研修や対話を通じて年間を通して継続的に育んでいく

4. 「教えない保育」の実践として、子どもの主体性と非認知能力の育ちにつながる「探究」を、園全体の価値提案(UVP)として少しずつ推進していく

探究保育(学習)を特別な時間ではなく、日々の保育の中で実践を進め、子どもが考え試し関わる姿を育て、園の価値(UVP)として発信していく

(3) 2026年度事業計画

5. 事務局支援を“手厚さ”から“自立と本質性を支える支援”へ転換する

WHY(なぜ)に焦点を当てた支援を重視し、支援の取捨選択と仕組み化を進め、現場が自ら考え判断し、動ける状態を支える

6. 園に関わるすべての人に向けた発信を、継続性と質の両立で進化させる

法人主導の公式インスタ、GAKUGAKU CLUBの推進に加え、園主導の発信についても、量だけでなく質を高めていく

7. 積み上げてきた中長期の重点戦略を、止めず、ぶらさず、深化させる

これまで継続してきた重点戦略について、断続化させることなく、是々非々で見直しながら継続運営を実現する

8. 法人の経営計画と各園の事業計画を、「確認の場」から「学びと改善の場」へ

園長会にて経営計画、事業計画の進捗を確認し、単なる報告に留めず、ふりかえりを通じて、次の一手につなげる

(3) 2026年度事業計画

9. AI研修およびAIシステムの導入を進め、現場の業務効率化と本来業務への集中を実現する

AI研修の実施と業務支援システムの導入を段階的に進め、事務、管理業務の負担を軽減し、保育、人材育成、対話に時間を
使える環境を整える

10. 園長・主任・執行部の連携を強化し、チームとして意思決定・実行できる体制をつくる

園長と主任の連携を軸に、執行部全体のチームビルディングを進め、個人依存ではなく組織として 動ける体制を強化する

11. キャリアパスをさらにブラッシュアップし、各役職の役割と期待値を明確にする

キャリアパスを見直し、園長、主任、副主任、一般職それぞれの役割と責任期待される行動を明確にし、成長の道筋が見える
人材育成を進める

学びの保育園保育ビジョン

▶大事にしたい保育

教えない保育／子どもの先回りをしない保育／子どもが主体性を身につける保育

＊主体性：物事に進んで取り組む力 主体性のある人：自身の判断によりやるべきことを見極め、目標に向かって効果的に行動できる人

▶大事にしたい保育の構造

個々の子どもの発達に合わせた子ども主体の体験学習型保育

▶大事にしたいねらいの背景

『子どもが自ら決める、子どもが自ら責任をもってやり切ろうとする、子どもが自ら気づく』

▶大事にしたい保育の姿勢

1. 保育のねらいを明確にする（一斉保育は、自由保育は、とかの枠組は取っ払う！）
2. 乳児も幼児も、ひとり一人をよく見て、気持ちは一旦受け止めてみる
3. 全てが学びの機会であると捉える
4. 子どもの成長を信じる
5. プロセスを重視する
6. 長短同根、長所に注目する
7. ポジティブストロークを大切にする
8. 肯定的に訊ねる
9. 命に直結するような危険には絶対的に対応する
10. 我々はファシリテーターであり、学びの7つのプログラムの推進者である

(4) 2026年度各園 事業計画 (薬園台・学びの保育園)

「子どもや先生の主体性を大切に常にチャレンジし、学び成長し続ける保育園」

「一人ひとりが尊重され、認め合える園」を根底に置き、子どもだけでなく、保護者、保育者みんながありのままを認め合える園作りを続けていく。それぞれが違う新しいことに挑戦し、お互いを認め合いながら理念保育を実現し、やりがいを高めていく。

自然環境認証制度の認証が受けられることになり、園外の活動や、飼育栽培の充実を図り、自然探索、探求心を育みながら自然活動を楽しめるようにする。

理念推進チームを作り、今年度も専門リーダー中心に、意識の定着を図ったり一人ひとりに課せられた役職・分野別リーダーに対してどう行っていくのか、考え挑戦できるようにしていく。また今年度は0, 1歳児のクラス連携強化の年とし環境リーダーを任命し、限られた人数でも子どもの満足につながる保育ができるよう工夫していく。

地域活動は地域に根付いた保育園を目指し、今年度も近くの商店街を散策しながらかかわりを広く持てたらと考える。引き続き薬園台高校の生徒さん、折り紙の会の方々との交流をつづけていきながら、子どもたちの社会性を育てていきたい。

（４）2026年度各園 事業計画 （薬園台・学びの保育園 年間研修予定）

R8年度 園内研修実施計画

		実施計画内容
4月	4月18日	保育のすり合わせ 人権擁護について 園長経営計画共有
5月	5月30日	AED研修（消防署合同）、アクションカード 研修
6月	6月 日	不審者対応訓練（施設内侵入）船橋東警察 執行部インナーブランディング研修
7月	7月 日	馬場先生訪問廃材遊び（幼児組）
8月	8月 日	研修報告会
9月	9月 日	運動遊び、まなびのあそびたいそう研修
10月	10月 日	不審者対応訓練（施設外）
11月	11月21日	自然活動体験研修 嘔吐処理研修①
12月	12月19日	嘔吐処理研修② 馬場先生の自然物製作研修
1月	1月 日	表現遊び・楽器遊び
2月	2月 日	研修報告会
3月	3月 日	研修報告会

(5) 年間研修予定（法人全体）

法人研修スケジュール(予定) 2026年4月～2027年3月

月	研修名	対象	月	研修名	対象
5	園内全体研修	府中	6	調理室研修	調理スタッフ
5	園内全体研修	秋山	8	園長・主任研修	園長・主任
5	園内全体研修	善行	9	全園研修9月	全員
7	園内全体研修	各園	11～12	6園交流理念研修	階層別対象者 ※6回実施
7	園内全体研修	各園	12	副主任リーダーシップ研修	副主任
7	園内全体研修	各園	12	主任リーダーシップ研修	主任
6	看護師研修	看護師	1	全園研修1月	全員 ※2回実施
6	新入職研修	備考参照	5月～7月	AI研修	園長・主任